

糖尿病透析患者に対する GLP-1 受容体作動薬  
リラグルチドの使用経験  
- 皮下連続式グルコース測定 (CGM) による評価 -

長崎腎病院

○船越 哲 小嶺真耶 宮崎健一 李 嘉明 橋口純一郎 中島ゆかり 矢野  
未来 江藤りか 原田孝司

**【目的】**

インスリン治療中の糖尿病透析患者における GLP-1 受容体作動薬リラグルチド単剤の有効性を検討する。

**【対象および方法】**

当院外来通院中の血糖コントロール不良のインスリン治療中の維持透析患者で、原則として①空腹時 CPR) >5.0  $\mu$ U/mL、②併用の糖尿病治療薬なし、を満たす 4 例に対して、入院管理にてリラグルチドに切り替える。切り替え前後の CGM (Continuous Glucose Monitoring 皮下連続式グルコース測定) にて血糖 profile を測定する。

**【結果】**

インスリン投与時の HbA1c 8.4+3.1% から、リラグルチド 0.9mg 切り替え後の HbA1c 6.4+2.0% と有意に減少し、血糖変動スコア MAGE (Mean Amplitude Glucose Excursions) も 128+41.0 から 60.3+32.3 と、有意に低下した。低血糖はみられなかった。

**【考察】**

血糖コントロール不良の糖尿病透析患者 7 例において、インスリンからリラグルチド単剤へ切り替えを行い、切り替え後は HbA1c のみならず MAGE 値もに有意に低下したことより、今後の透析患者における GLP-1 受容体作動薬の有用性が期待される。